

科目名	キリスト教学Ⅰ	必修選択	必修
		授業形態	講義
担当教員	アンネリーゼ・デーケン 御子神 隆也	単位数	2
		開講時期	1年次後期
		開講学科	全学
目標	キリスト教思想に基づく人間の生と死の理解を学ぶことを通して、人生の意義や人間の尊厳について考え、人間らしく豊かに生きるための指針を探る。		
内容	毎回定められたテーマ（下記「計画」参照）について講義を行い、いくつかのテーマについて小論文を作成、提出させる。		
履修上の注意	特になし。		
<b>授 業 計 画</b>			
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今を生きる</li> <li>2. 私は誰か</li> <li>3. 生きがい・人生の意義について</li> <li>4. 宗教とは何か—宗教が人間社会に果たす役割、宗教と科学との関係</li> <li>5. ユダヤ教・キリスト教の成立／聖書という書物</li> <li>6. キリスト教の自然観・世界観—創世記1、2章から</li> <li>7. 人間の「罪」について—創世記3章から</li> <li>8. イエスの登場と時代背景</li> <li>9. イエス・キリストの言葉と行い（1）</li> <li>10. イエス・キリストの言葉と行い（2）</li> <li>11. イエス・キリストの言葉と行い（3）</li> <li>12. イエス・キリストの言葉と行い（4）</li> <li>13. 「十字架」とその意味</li> <li>14. 苦しみについての問い—人はなぜ苦しまなければならないのか</li> <li>15. 総括</li> </ol>		
テキスト	『聖書—新共同訳・旧約聖書続編付き』（日本聖書協会） アルフォンス・デーケン著『キリスト教と私』（聖母の騎士社） 石川康輔編『きょうの祈り』（ドン・ボスコ社）		
指定図書	なし。		
評価基準	①定期試験・小論文（70%） ②授業出席（30%）		

科目名	哲学B	必修選択	選択
		授業形態	講義
担当教員	御子神 隆也	単位数	2
		開講時期	1年次後期
		開講学科	全学
目標	人間として正しく善く生きること（倫理）について探究するための基礎的な知識を学び、人間らしく豊かに生きるために自ら考える姿勢を身につける。		
内容	倫理学概論。倫理学における主要なテーマ（下記「授業計画」参照）を取り上げ、それについて講義、質疑応答を行う。		
履修上の注意	レポート作成に役立てるために、講義内容に関連する5冊程度の本を読むことが求められる。		
<b>授 業 計 画</b>			
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正しく生きることの意味—倫理とは何か</li> <li>2. 善悪の基準に関する諸説（1）</li> <li>3. 善悪の基準に関する諸説（2）</li> <li>4. 自然道徳律—倫理の成立根拠に関する考察</li> <li>5. カントの道徳哲学</li> <li>6. シェーラーの価値人格主義</li> <li>7. 良心について（1） 映画“Scent of a Woman”の観賞1</li> <li>8. 良心について（2） 映画“Scent of a Woman”の観賞2</li> <li>9. 良心について（3） 良心に関する考察と討論</li> <li>10. 生命倫理（1）—概論：生命の尊厳とは何か</li> <li>11. 生命倫理（2）—初期の生命をめぐる問題（出生前診断と優生思想）</li> <li>12. 生命倫理（3）—終末期の生命をめぐる問題（尊厳死、安楽死）</li> <li>13. 性をめぐる倫理—人間にとって性とは何か</li> <li>14. 結婚、生殖・出産に関する権利の問題—結婚・子育てと倫理</li> <li>15. 総括・レポート作成指導</li> </ol>		
テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、教材プリントを配布する）。		
指定図書	なし。		
評価基準	①授業出席（30%） ②レポート（70%）		